

企業統治と 社会的責任経営を 果たすための財務幹部の役割

第42回
世界CFO会議
メキシコ大会

The Role of the Financial Executive as a Key Player of the Corporate Governance and Responsible Management in business

谷口 宏

日本CFO協会専務理事・IAFEI会長

遠藤裕明

日本CFO協会主任研究委員

- 主催：IAFEI（国際財務幹部協会連盟）
- 日時：2012年11月14日（水）～17日（土）
- 場所：カンクン（メキシコ）

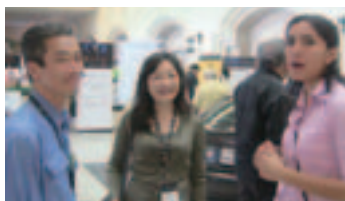
世界のCFO協会が組織するIAFEI（国際財務幹部協会連盟）が毎年各国で開催している世界CFO会議が、今年は二月二四日から一七日の四日間、メキシコのカンクンで開かれた。

メキシコは、BRICsに次ぐ新興国として将来的にはブラジルを超える中南米最大の経済規模になるとも予想されている。八〇年代の債務危機から回復し、若年層の多さという潜在力を背景に、積極的な対外開放政策を特徴として順調に経済成長を遂げているほか、APECやOECDへの加盟に続いて二〇〇八年にはG20のメンバーとなるなど着実に先進国への仲間入りをしている。今年度のメキシコでの開催は、こうしたメキシコの国際社会でのプレゼンスの高まりを感じさせるもので、メキシコのCFO協会（正確にはメキシコ財務幹部協会、IMEF・Instituto Mexicano de Ejecutivos de Finanzas）のもと、内外から三二五名にも上る参加者を迎えての盛大な大会となった。

メキシコCFO協会に向けて

メキシコのCFO協会（IMEF）は、一九六一年設立と歴史は古く、一五〇〇名に及ぶCFOや財務幹部をメンバーに抱え、国内二〇箇所の支部を中心に財務、税務、ガバナンス、CSRなど二三のテーマの委員会が毎月の会合を持つなど非常に活発な活動を行っている。この世界CFO会議はメキシコの協会の年次総会も兼ねていることから、各支部のメンバーが正に一堂に会してネットワーキングを行うものとして機能していた。

オープニングにはメキシコ大統領が参加してスピーチをすることが予定されていたが、当日急遽予定が合わずにメキシコの経済団体総裁による代替講



演となったものの、講演者はノーベル賞受賞者や経済関係なども参加するなど、まさに国を挙げての充実したプログラムであった。「企業統治と社会的責任経営を果たすための財務幹部の役割」と題された今回の大会は、財務や会計、リスク管理のプログラムばかりではなく、「メキシコの二〇三〇年に向けて」というテーマや、クリーンテクノロジーやリサイクル、環境配慮型ビジネスといったサステナビリティ、さらにはITのビジネス・トレンドと称してソーシャルメディアやクラウドの発展についてなど、テーマが多岐にわたっていたのが印象的であった。

リーマンショック以降の不透明な世界経済の中で、ローカーボン経済という企業と大自然との共生モデルをいかに構築し、その新しい枠組みの中でどのように新しいビジネス機会を追求していくかというテーマは、昨年九月に行われた北京(中国)大会の時も、主催国である中国CFO協会がメッセージとして強く打ち出していた。単なる財務や会計の技術的なテーマにとどまることなく、企業の社会的責任経営(CSR経営)への積極的な関与による持続的成長という大きなテーマに対するCFOの関心の高さは、多極化する世界経済の中で勢いを増す新興経済の底力を感じさせる。

メキシコ情緒を満喫

IAFEEIの世界CFO会議は参加国が持ち回りで開催するため、毎年その国の特徴を反映したユニークな会議が経験できる。後ほどご紹介するメキシコの協会代表ルイス氏のインタビュにもあるように、明るいつラテン文化だからなのかネットワークキングに非常に重点が置かれている。プログラムには多くのイベントが織り交ぜられており、水曜夜のオープニング・

レセプションに始まり土曜夜のガラ・ディナーに至るまで、四日間に及ぶ盛りだくさんのカンファレンスであった。レセプションやテーマパークでの伝統的なサツカーやマリアッチによるメキシコ音楽のショーなど、海外からのゲストにも飽きさせない工夫を凝らしながら、夕方から夜の時間には密度の濃い時間を参加者が一緒に過ごすように

デザインされていた。最終日の夜九時にスタートしたガラ・ディナーは、終わりが午前二時。深夜までほぼ全員が帰ることなく生バンドをバックにダンスを楽しむという、メキシコ情緒いっぱいのものであった。

来年のカンファレンスは、ポーランドのワルシャワである。財政危機から立ち直ろうとしている欧州が、来年どのような展開をみせるのかとても興味深い。

IAFEEIへの期待

IAFEEIは、世界一九カ国のCFO協会が加盟する唯一のCFOの世界的ネットワークで、一九六九年の設立とその歴史は古い。これまでは各国の協会が情報交換をする程度の活動であったが、アジアに加えてメキシコのような新興国が台頭してくるな



とになった。

ど、多極化しつつある世界経済の中でIAFEEIへの期待も高まりつつある。世界各国連携してのアンケート調査やIAFEEI全体としての情報発信など、近年は具体的な活動が展開されつつある。既に本誌でもご紹介してきたように、アジア各国の協会によって国境を越えた「世界統一資格・検定」構築に向けたプロジェクトも立ち上がっている。中国からは、IAFEEIとしての「CFOベスト・プラクティス」の制定について提案があったほか、今回の主催国メキシコからも国際税務や国際財務といった専門テーマを扱う委員会をIAFEEI内に発足させる提案が行われ、今回の総会でその活動が満場一致で認定されるこ

二〇一〇年のローマ大会にてIAFEEI会長に選ばれてから約二年、IAFEEIの活動をより活性化するため奮闘してきたが、次期会長にも選出されたメキシコ代表の副会長ルイス氏の力強いサポートのもとで、IAFEEIのガバナンス体制の改革も実現することができた。ルイス氏よりプレゼントされた、「グアヤベラ」というメキシコでは正装時に着る白い民族衣装をまとうて行ったスピーチを最後に、IAFEEI会長としての仕事をルイス氏に引き継ぐことができた。

来年以降、ますますIAFEEIの活動が活発化し、各国の協会を通じてCFOの皆様へより一層の価値を提供できるのが楽しみである。



来 年 度 I A F E I 会 長 に 聞 く



ルイス・オルティス・イダルゴ氏
Mr. Luis Ortis-Hidalgo
IAFEE副会長兼米州地区代表
メキシコ財務幹部協会（IMEF）
国際関係担当バイスプレジデント

●プロフィール

Basham, Ringe y Correa, S.C. 代表パートナー。所得税、付加価値税、物品税および国際財務報告基準 (IFRS) を専門とする税務顧問および訴訟専門弁護士として活動するほか、外部会計監査人と連携した財務諸表作成にも関与。1986年にメキシコ法人顧問弁護士協会の会長に就任し、1999年から2001年まで国際法曹協会 (IBA) の税務委員会議長を歴任。2005年には、年間最優秀顧問弁護士 (The Corporate Lawyer of the Year) に選ばれ、メキシコ最高裁判所長官より同賞が授与される。税法および財務に関する IMEF 機関誌、その他の国際的出版物への寄稿も多数に上る。現在は世界有数の法律事務所ネットワークである レックス・ムンディ (Lex Mundi) の会長を務めるとともに、在メキシコ米国商工会議所の税務専門部会の会長にも就任。

——世界CFO会議の招聘ありがとうございました。IAFEEの総会も含めると約一週間の長いプログラムでしたね。

今回はリゾート地として名高いカンクンを会場に選びました。これはCFOなど各界の財務エグゼクティブ達が一堂に会してじっくりと時間を過ごしてもらうためです。財務や金融に関するテクニカルな話題を議論することももちろん重要ですが、ネットワーキングの価値はそれ以上なのです。

——長期的な国の方向性について議論するというセッションまであり、非常に参考になりました。メキシコの抱えている課題は、日本の課題ともかなり重なっているのも改めて感じました。

今回は「二〇三〇年のメキシコについて」というテーマのセッションを組みました。政府と経済政策、インフラのダイナミクス、労働政策、競争力強化に向けての課題、国際舞台でのメキシコ、といったサブテーマに分けて議論することができました。

メキシコの経済も現在は統計上も極めて順調な成長に見えるかもしれませんが、フタを開けてみれば経済格差や貧困、失業の問題など課題は多くあります。それだけにまだまだ成長の余地は大きいわけですが、このような長期的な問題について、じっくり考える時間を取ることが重要です。日常の業務から離れて長期的な課題を仲間と一緒に考えることでクリエイティブな発想も生まれると信じています。

——確かにメキシコの経済は順調なようです。世界経済危機の影響も受けていないように思います。

「デキーラ危機」と言われた、デフォルトと通貨切り下げという九〇年代の苦い経験がありますが、現在メ



キシコ経済は個人消費を中心とした内需拡大や自動車を中心とした輸出拡大のおかげで、GDP成長率三%強と極めて健全な状態にあります。二〇〇八年以降の金融危機からも直接の影響は免れましたし、外貨準備も潤沢に積み上がってきています。

もともとメキシコは原油の生産が重要な基盤なのですが、隣国米国の自動車産業の工場としても拡大してきました。日本からも古くから日産が進出しており、最近でも二〇二二年に三つ目の工場の建設を開始するなど、順調な拡大が続いています。その後を追って、トヨタ、マツダもプレゼンスを高めつつあり、欧州からもアウディなど積極的に進出してきています。今では自動車産業は、石油産業に匹敵する基幹産業として昨年には輸出額の二割以上を占め、世界の自動車生産の第八位となりました。ドイツ、フランスやアメリカとのビジネスも活発ですが、日本の製品はクオリティが高いので、自動車関連以外にも電気、機械等を含め足元ではニケタ近く貿易が伸びています。個人的にも日本製品の大ファンです。車も日産です(笑)。



心配されているインフレについてはどうですか。

インフレについてはさほどの懸念はないと思います。むしろ世界経済悪化による影響が心配です。メキシコは金融危機からも直接の影響を被らずに済みましたが、今後中国や欧州の景気がさらに悪化したり、米国の「財政の壁」問題などでさらに成長が減速するようであれば、メキシコとて無関係ではいられません。

また、大きな産業である石油産業についても、米国においてシェールガス、シェールオイルの生産が増加、供給が増加することで、原油の価格にも下方圧力がかかる可能性があります。今後より一層石油産業の効率改善が課題となるでしょうし、また化石燃料を多



く取り扱う国として、地球温暖化も深刻な問題です。今大会でも、代替エネルギーやリサイクルについても取り上げました。

今回の会議ではメキシコの税制見直しについてのコメントも多くありましたね。

税制については、今大幅な見直しに向けて議論が活発に行われているところです。野党政党内出身の大統領に六年ぶりに交代し、新政府が二月にスタートするところですが、税制の見直しは重要な政策課題の一つになっています。所得税率とVATとのバランス、最低税率の見直しのほか、法人税を三〇%までの累進税率とする代わりに親会社・子会社間の利益の移動については厳しく監視することなどが二〇二三年後半からの施行に向けて検討されています。税収を確保した上で企業活動も促進し、各国の税率も考慮しながら海外からの直接投資を促すことがポイントになっています。

これまでも租税協定、FTA、TPPなどの自由貿易の枠組みにはアクティブに取り組んできていますので、租税の透明性と公平性、国際基準での監査の重要性については深く認識しています。

海外からの投資促進には汚職などのイメージ払拭も課題ではないですか。

ガバナンスの改善は海外からの投資促進に不可欠でしょう。かつては汚職がはびこっていたことを踏まえ、市場の透明性を高めていくようOECDの制度等を研究している段階にあります。

す。まだまだ課題はありますが、「ベストプラクティス基準」が定められ、社外取締役役に相当する独立のアドバイザーの設置義務付けや、ディスクロージャーの強化などガバナンスの改善は着実に前進していますし、マネーロンダリングや汚職は相当減少したことは確かです。

最後に、IAFFI会長を来年に向けてバトンタッチしますが、抱負をお聞かせください。

メキシコの協会としての立場からも、CFOのベストプラクティス、高い倫理基準を導入して世界のスタンダードに追いついていくことが急務です。我々がIAFFIのような国際的な団体に期待する部分は非常に大きいものがあります。

谷口会長の二年間のリーダーシップのおかげで、加盟国の協会の意見交換はこれまでになく活発になりましたし、アジア各国が共通の資格認定制度を立ち上げようとするなど強い結束力も見られるようになりました。今回の総会で確認したように、来年に向けた

新しい活動の準備も着々と進めることができました。このような中で私を来年度のIAFFIの会長に選んでいただいたことは大変光栄です。世界経済の状態がますます不透明さを増す現在の状況では、CFOが国境を越えてさまざまな財務のエグゼクティブたちと交流を深め、多様な価値観を共有していくことがより重要になります。責任も重大だと緊張しています(笑)。

